

# 平成 24 年度 事業報告

近年の急速な少子高齢化と生産年齢人口の減少に伴い、政府は社会保障制度に係る支出を抑制しつつ、受益と負担の均衡がとれた持続可能な社会保障制度の確立を図るため、社会保障制度改革推進法（平成 24 年 8 月 22 日施行）による「社会保障制度改革国民会議」の結果等を踏まえ、同法施行後 1 年以内に必要な法制上の措置を講ずるとしており、我が国の社会保障制度は大きな転換期を迎えている。

こうした中、平成 24 年 4 月に診療報酬・介護報酬改定が行われた。診療報酬は、医科・歯科・調剤を合わせた全体（本体分）で+1.38%となり、薬価及び材料価格の引下分を考慮すると、トータルで 0.004%のプラス改定にとどまった。在宅薬剤管理の実績評価や小規模薬局間による連携体制の整備などが図られ、また、介護報酬においても薬局・薬剤師への期待が大きいものの、地域医療提供体制の中で薬局・薬剤師が貢献していくことが求められていることに他ならない。

また、平成 24 年度は 6 年制の薬剤師養成教育修了の薬剤師が初めて輩出された。6 年制の薬剤師養成教育は、病院と薬局で 5 ヶ月間の実務実習を修了していることが、薬剤師の国家試験を受験する条件として盛り込まれ、医療の現場において薬剤師の果たすべき責務の重要性を認識させ、医療の担い手としての責任感を身につけさせることを目的としている。医薬品の供給を通じ、国民の健康面の安心と安全を守る立場にある薬剤師への期待が、より大きくなるものと思われる。

さらには、「保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則」等が一部改正され、平成 24 年 10 月 1 日より、保険調剤等に係る一部負担金の受領に応じてポイント付与することが原則禁止となった。このような行為は、健康保険法の趣旨に反するだけでなく、公的社会保障制度の崩壊に繋がりがねないとの理由から、薬剤師会は一貫して反対してきたところであり、今後も会員への周知徹底に努めて参りたい。

一般用医薬品のインターネット販売事業者が、第 1 類・第 2 類医薬品の郵便等販売を行う権利の確認等を求めた訴訟で、東京高裁がこれを認めるとした判決に対して国が最高裁に上告していた件は、1 月 11 日の最高裁で棄却された。インターネットによる医薬品の販売は匿名性が高く、国民の安全及び医薬品の適正な選択・使用を揺るがしかねないとの考えから、薬剤師会は、利便性よりも安全性を重視し、インターネットによる医薬品販売には反対してきたが、厚生労働省は今回の判決を受け、一般用医薬品のインターネット販売等についての新たなルール等を検討するための検討会を設置し、省令の改正にとどまらず、薬事法の改正も視野に検討を進めているところである。

加えて国は、医療計画の見直しに関する検討会を重ね、医療提供体制の確保に関する基本方針を改正し、主として疾病・事業ごとの P D C A（plan-do-check-act）サイクルの推進、医療従事者の確保等が盛り込まれた「医療計画作成指針」を平成 24 年 3 月 30 日に公表した。これを受け静岡県は、医療環境の変化や制度改革等に適切に対応し、県民が安心

して暮らせる医療の充実を推進するため、同指針に則して、かつ、地域の実情に応じて、現在の「静岡県保健医療計画」の一部見直しを行い、平成 25 年 3 月、現行計画の追補版として告示した。

一方、日本薬剤師会は、平成 24 年度において生涯学習支援システム「JPALS」を構築し、スタートさせた。学習を記録する『ポートフォリオシステム』と、ポートフォリオに書くことのできる学習手段の一つとして提供する『e-ラーニングシステム』の 2 つのシステムで構成されており、すべての職域の薬剤師が体系的、計画的に生涯学習を進めていけるよう、日本薬剤師会が提供するもので、2 月 7 日現在の登録者の総数は 11,638 人、うち静岡県内は 413 人であった。本会においても普及促進に努めていく所存である。

さらに特筆すべきは、平成 24 年度は、10 月 7 日（日）・8 日（月・祝）の 2 日間、浜松市のアクトシティ浜松、オークラアクトシティホテル浜松、ホテルクラウンパレス浜松において「第 45 回日本薬剤師会学術大会」（静岡大会）を開催したことである。全国から 7,400 余名の参加を得て、盛会裏に終了することができた。作家の瀬名秀明氏による特別記念講演をはじめ、5 題の特別講演、テーマごとの分科会や会員発表など、本学術大会が今後の薬局、薬剤師の道標になるものであり、これもひとえに会員の皆様のご協力とご支援の賜物と心より感謝申し上げる次第である。

最後に、本会は、平成 20 年 12 月 1 日施行の新公益法人制度に対応すべく、かねてより準備を進めてきたところであるが、平成 24 年 4 月 1 日付けの移行登記をもって、「公益社団法人静岡県薬剤師会」が発足した。移行後の『公益目的事業』は、薬剤師の業務を達成するためのものであり、薬剤師の業務が不特定多数の者の健康増進や公衆衛生の向上のために行われることをもって、本会の事業は不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものである。今後は「公益社団法人」として、これまでも増して県民の健康な生活の確保及び向上に努めていかなければならない。

以下に、平成 24 年度における静岡県薬剤師会の活動を報告する。

## <公益目的事業>

薬剤師の倫理の高揚及び学術の振興を図り、薬学薬業の進歩発展を図ることにより、静岡県民の健康な生活の確保及び向上に寄与する事業

### I 薬学及び薬業の進歩発展に関する事業

#### 1 生涯学習の推進

##### (1) 日本薬剤師会「生涯学習支援システム」（愛称「JPALS」）の周知

患者・国民の医療に対するニーズが多様化する中、信頼され求められる薬剤師となるためには、一人ひとりが目標を定めて研鑽を積むことが必要である。日本薬剤師会は、そのような視点を軸に、ジェネラリストを養成するための「生涯学習支援システム」を構築し、平成 24 年 4 月 1 日から運用を開始した。

これを受け、静岡県薬剤師会は、薬剤師の生涯学習を支援することによって、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的に、5月13日（日）、静岡県薬剤師会館にて薬剤師対象の「日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）説明会」を開催した。

また、地域薬剤師会からの依頼により、担当役員を地域に派遣し、システムの周知に努めた。

#### （2）疾患別シリーズ研修会の開催

日頃多くの患者と接している薬剤師が、薬局の日常業務において遭遇する代表的な疾病に対する標準的な治療及び必要とされる薬学的管理に関する知識を習得し、患者に対する受診勧奨や生活改善の提案など幅広い保健医療業務を展開することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は、以下のとおり実施した。

回次	テーマ	期 日	場 所	参加者数
第1回	潰瘍性大腸炎・クローン病	12月16日（日）	静岡県薬剤師会館	56名
第2回	骨粗鬆症	2月11日（月・祝）	静岡県薬剤師会館	53名
第3回	認知症	3月3日（日）	静岡県薬剤師会館	52名

#### （3）日本薬剤師研修センター及び静岡県薬剤師研修協議会が実施する生涯学習事業への協力

薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与するための日本薬剤師研修センター制定の研修認定薬剤師制度に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

地域・職域薬剤師会等が主催する各種研修会の開催計画書等の受付等関係業務（集合研修249件）を行うとともに、「研修認定薬剤師」の新規認定211名、更新認定300名、計511名の手続きを行った。

#### （4）名古屋市立大学、岐阜薬科大学及び静岡県立大学による「三公立連携薬剤師生涯学習支援講座」への協力

薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与するための三公立連携薬剤師生涯学習支援講座に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

文部科学省委託事業である「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において、東海地区の公立薬学系大学である名古屋市立大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学による「地域－大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム」が採択され、平成20年12月より薬剤師の生涯学習を支援するための教育プログラム「三公立薬剤師生涯学習支援講座」が実施されている。

静岡県薬剤師会は講座開設から継続して協力しており、平成24年度は、静岡県立大学薬学部による「薬剤師生涯学習支援講座」の案内チラシを配布した。

#### （5）研修センター構想あり方検討有識者会議の開催

薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与するための研修認定薬剤師制度を立ち上げる  
ことにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

2月14日(木)、静岡県薬剤師会館にて2回目の「研修センター構想あり方検討有  
識者会議」を開催した。会議の構成員として、静岡県薬剤師会から松山副会長、明石  
副会長、伊藤常務理事、賀川常務理事、植常務理事、原田常務理事が、静岡市薬剤師  
会から秋山会長が、静岡県立大学薬学部から内野智信講師が就任。静岡県薬剤師研修  
センターの設置の要否、展望等について検討した。

## 2 薬剤師養成のための薬学教育への対応

薬学生の卒業単位及び薬剤師国家試験受験に必要な実務実習を行うため、日本薬剤師  
研修センター認定の「認定実務実習指導薬剤師」を養成し、薬局における受入れ体制を  
整備することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としてい  
る。

平成24年度は、以下のとおり実施した。

### (1) 日本薬剤師研修センター認定「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」の開 催

「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」は、平成17年度以降、平成23年  
度までは日本薬剤師研修センター、病院・薬局実務実習東海地区調整機構及び静岡県  
薬剤師会が主催していたが、平成23年度以降は一般社団法人薬学教育協議会、病院・  
薬局実習東海地区調整機構及び静岡県薬剤師会の主催で開催している。

[第42回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海(静岡)]

期日：1月14日(日)・15日(月・祝)

場所：静岡県立大学(静岡市駿河区)

受講者数：54名

### (2) 日本薬剤師研修センター認定「認定実務実習指導薬剤師養成講習会」の開 催

期日	場 所	参加者数
2月2日(土)	沼津薬剤師会医薬分業推進支援センター	22名
3月17日(日)	静岡県薬剤師会館	42名
3月17日(日)	浜松市薬剤師会研修室	25名

### (3) 病院・薬局実務実習東海地区調整機構への参画

会議の名称	期日	場 所	出席者
調整機構委員会・小委員 会合同会議	5月19日(土)	M S A T (名古屋市中村区)	松山副会長 原田常務理事
調整機構委員会・小委員 会合同会議	2月23日(土)	M S A T (名古屋市中村区)	賀川常務理事

### (4) 地域薬剤師会薬局実務実習担当者会議の開催

4月15日(日)、静岡県立大学看護学部棟にて担当者会議を開催した。

### (5) 静岡県立大学薬学部薬局実務実習への協力

平成22年度から、病院及び薬局における、夫々11週間にわたる実務実習が開始さ  
れ、平成24年度は116名の学生を受け入れた。

受入施設の確保及び「認定指導薬剤師」の養成は、日本薬剤師研修センター、病院・薬局実務実習東海地区調整機構との連携の下、推進している。

ア 静岡県立大学薬学部学生病院・薬局実務実習協議会への参画

期日	場所	出席者
2月25日(月)	静岡県立大学	松山副会長、植・原田常任理事

イ 平成24年度薬学部1年生早期体験学習受入薬局の調整

期日	受入薬局の地域	受入人数
12月5日(水)	三島、沼津、富士、清水、静岡、焼津、藤枝	60名
12月6日(木)	富士、清水、静岡、藤枝、榛原、小笠袋井、浜松	66名

ウ 実務実習報告会への参加

期日	場所	出席者
12月16日(日)	静岡県立大学	曾布川会長、松山副会長

エ O S C E (客観的臨床能力評価試験)への評価者派遣

[静岡県立大学薬学部O S C E直前評価者講習会]

期日: 11月17日(土)

場所: 静岡県立大学(静岡市駿河区)

参加者: 松山副会長、秋山・伊藤・植・原田常務理事、  
大重薬学生実務実習委員会委員(静岡)

[静岡県立大学薬学部O S C E本試験]

期日: 12月10日(土)

場所: 静岡県立大学(静岡市駿河区)

参加者: 松山副会長、秋山・伊藤・植・原田常務理事、  
大重薬学生実務実習委員会委員(静岡)

オ その他静岡県立大学薬学部が主催する関連事業への協力

[平成24年度静岡県立大学学部・短期大学部・大学院入学式]

期日: 4月6日(金)

場所: グランシップ(静岡市駿河区)

出席者: 曾布川会長

[平成24年度静岡県立大学学部・短期大学部・大学院・学位記授与式]

期日: 3月20日(水)

場所: グランシップ(静岡市駿河区)

出席者: 曾布川会長

[平成24年度静岡県立大学薬学部・薬学研究科学位記伝達式]

期日: 3月20日(水)

場所: 静岡県立大学(静岡市駿河区)

出席者: 曾布川会長

(6) 東海地区戦略的大学連携支援事業への協力

6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携事業

として、3月16日(土)、名古屋市立大学にて「第1回運営委員会」及び「東海薬学教育コンソーシアム講演会」が開催され、伊藤常務理事が出席した。

なお、文部科学省採択の本事業は、平成23年3月をもって終了し、平成23年度から「東海薬学教育コンソーシアム」として再スタートしている。

### 3 学術活動の推進

#### (1) 第45回日本薬剤師会学術大会(静岡大会)の開催

薬剤師の学術的水準を高めるため、全国各地の薬剤師が日頃の業務の成果を発表し、講演し、意見交換するなど、薬剤師の学術的水準を高めることにより、国民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年10月7日(日)・8日(月・祝)、アクトシティ浜松他にて「第45回日本薬剤師会学術大会」(静岡大会)を開催した。

メインテーマ:「未来を奏でる薬剤師響奏曲」～その職能は新たなステージへ～

会期:平成24年10月7日(日)～8日(月・祝)

会場:アクトシティ浜松/オークラアクトシティホテル浜松  
/ホテルクラウンパレス浜松

主催:公益社団法人日本薬剤師会/公益社団法人静岡県薬剤師会

大会参加登録者数:7,443名[一般:7,270名、学生:173名]

#### ア 開会式

日時:10月7日(日)10:00～12:00

会場:アクトシティ浜松 大ホール

参加者:約2,000名(中継会場約400名)

#### ■式典・表彰式

開会式第1部の式典は、厚生労働大臣(厚生労働省大臣官房審議官代読)、文部科学大臣(文部科学省大臣官房審議官代読)、静岡県知事、浜松市長(浜松副市長代読)、静岡県医師会長、静岡県歯科医師会長、静岡県看護協会会長、薬剤師議員の松本純氏、藤井基之氏ら26名の来賓をお迎えし、明石実行委員長の開会宣言、大会長の児玉日薬会長の挨拶、運営委員長の曾布川日薬会長の挨拶が行われ、来賓の挨拶と続いた。

引き続き、第2部の表彰式が執り行われ、日薬賞6名、日薬功労賞10名の薬剤師が長年の功績により表彰された。

#### ■特別記念講演

開会式第3部の特別記念講演は、作家・薬学博士の瀬名秀明氏から「科学・薬学の未来」と題して講演いただいた。作家ならではの切り口で科学と薬学の未来についての講演に参加者は惹きつけられていた。

#### イ 特別講演・分科会・ディベート

#### ■特別講演

特別講演は、石巻赤十字病院 医療社会事業部長・宮城県災害医療コーディネーター 石井 正先生をはじめ、静岡県立大学学長 木苗直秀氏、静岡大学大学院人文社

会科学研究科教授 臨床人間科学専攻 松田 純氏、日本薬剤師会副会長 三浦 洋嗣氏、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 田中 滋氏の各界における第一人者をお願いし、ご高説をいただいた。

講演 1	演題：石巻医療圏における東日本大震災への対応 日時：10月7日(日) 13:30～15:00 会場：アクトシティ浜松 大ホール 講師：石巻赤十字病院 第一外科部長・医療社会事業部長 宮城県災害医療コーディネーター 石井 正
講演 2	演題：薬食同源、食薬融合による健康長寿の実現 ～緑茶、わさび、みかんの機能性 日時：10月7日(日) 13:30～15:00 会場：アクトシティ浜松 中ホール 講師：静岡県立大学学長 木苗 直秀
講演 3	演題：薬剤師に求められる倫理とは－薬剤師の人柄と倫理原則 日時：10月7日(日) 15:15～16:45 会場：アクトシティ浜松 中ホール 講師：静岡大学大学院人文社会科学系教授 松田 純
講演 4	演題：診療報酬改定からみた薬剤師に求められるもの 日時：10月8日(月・祝) 9:00～10:30 会場：アクトシティ浜松 大ホール 講師：日本薬剤師会副会長 三浦 洋嗣
講演 5	演題：地域包括ケアシステムの実現に向けて －地域のニーズに応える専門職の役割－ 日時：10月8日(月・祝) 9:00～10:30 会場：アクトシティ浜松 中ホール 講師：慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 田中 滋

## ■分科会

分科会は14会場で行われた。

第一線で活躍するシンポジストによる講演など、各会場において活発な討議が繰り広げられ、多くの熱心な聴衆が集まった。

区分	テーマ
分科会 1	災害時医療と薬剤師 ～明日おこるかもしれない大規模災害に備えて～
分科会 2	薬学教育は新たなステージへ ～医療人として求められる薬剤師の基本的資質～
分科会 3	地域医療連携、さらなる展開を考える
分科会 4	ジェネリック医薬品の更なる普及のために ～最適なジェネリック医薬品の選択、そして医療費節減へ～
分科会 5	セルフメディケーションと薬剤師の役割
分科会 6	薬剤師の生涯学習元年－更なる自己研鑽へ J P A L S
分科会 7	広がる学校薬剤師の職能
分科会 8	医療と福祉の橋渡し役としての薬局
分科会 9	専門性を兼ね備えた薬剤師をめざす
分科会 10	社会の期待に応える薬剤師の将来像
分科会 11	在宅医療に取り組む薬局～患者がもう一つの職場～
分科会 12	より安全で安心ながん医療への貢献 ～病院薬剤師、薬局薬剤師それぞれの役割～

分科会 13	慢性疾患患者へのファーマシューティカル・ケアを考える
分科会 14	リスクマネジメント ～医療安全のための新たなステージ～

#### ■ ディベート

宮城大会（第 44 回大会）で予定されていたディベートを静岡県薬の独自色も出しながら取り入れた。ディベーターは 4 人とも薬剤師。降圧療法で頻用されているアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬について、その長所や短所を、種々の病態下におけるエビデンスに基づいて比較しながら討論した。

#### ウ 会員発表

会員発表は、日薬大会一般演題投稿規定に則り滋賀大会から採択された採択審査を運用し、査読委員会において審査を行った。応募件数は、547 題あり、一般演題 524 題（口頭発表 174 題、ポスター発表 350 題）を採用した。

口頭発表は 15 会場で行われ、どの会場も熱心な観衆が発表に耳を傾け、発表後も活発な質疑応答が交わされた。ポスター発表はアクトシティ浜松展示イベントホールで行った。両日とも多くの参加者で溢れかえるほど盛況であった。各ポスターの前には発表者に盛んに質問し、また、詳しい情報を得るために連絡先を交換するなど熱心な参加者の姿が見えた。

#### エ 薬学生による公開シンポジウム

アクトシティ浜松コンgresセンター 3 階 31 会議室で薬学生主体の「薬学生シンポジウム」が開催された。企画説明、事前アンケートの発表の後、チーム医療の取り組みについて説明があり、医療現場で発生するチーム医療の問題点についての解決策をグループディスカッション形式で検討し、発表された。

日時：10 月 8 日（月・祝）13:00～16:00

会場：アクトシティ浜松コンgresセンター 3 階 31 会議室

テーマ：異なる視点から学ぶチーム医療

参加者：薬学生等約 100 名

主催：日本薬学生連盟

協力：日本薬剤師会、静岡県薬剤師会

#### オ 県民公開講演会

一般県民を対象に県民公開講演会を開催した。講師には、ジャーナリストの鳥越俊太郎氏を招聘し「患者の立場から見た医療」と題した講演には、740 名を超える参加者があった。

日時：10 月 8 日（月・祝）15:00～16:00

会場：アクトシティ浜松 中ホール

テーマ：患者の立場から見た医療

講師：鳥越 俊太郎／ジャーナリスト

対象：一般県民（入場無料）

共催：静岡新聞社・静岡放送



後援：静岡県、浜松市

カ 薬科機器等展示（医薬品・OA 機器・薬科機器・その他展示、書籍、物産展等）

アクトシティ浜松展示イベントホールで行った。多くの参加者で溢れかえるほど盛況であった。また、企業展示のほか、「ものづくり浜松コーナー」「宮城県薬剤師会のモバイルファーマシー」の展示、静岡県物産等の販売も行った。

日時：10月7日（日）10:00～17:30／8日（月・祝）9:00～13:00

場所：アクトシティ浜松 展示イベントホール／2,550 m<sup>2</sup>

■製薬企業・その他 36社・団体

■書籍販売 5社

■薬剤師会関連 5団体（6種）

■薬科機器 19社・団体

■OA機器 30社・団体

■物産販売 7店

■ドリンクコーナー

提供者：カゴメ(株)、キリンビバレッジ(株)、静岡県農業協同組合中央会、静岡県経済農業協同組合連合会、大正富山医薬品(株)、西静岡ヤクルト販売(株)、(株)TOKAI アクア事業部

キ ランチョンセミナー（製薬企業等による共催セミナー）

ランチョンセミナーは19講演、4,181席を用意した。最新の学術講演や情報などを提供し、いずれの会場も最新の医学、医療、医薬品情報を求める参加者が真剣に聞き入っていた。

日時：10月7日（日）12:15～13:15

会場：アクトシティ浜松、オークラアクトシティホテル浜松

ホテルクラウンパレス浜松

共催：①大日本住友製薬(株)、②ファイザー(株)、③帝人ファーマ(株)、④大塚製薬(株)、⑤日本ジェネリック製薬協会、⑥第一三共(株)、⑦東和薬品(株)、⑧参天製薬(株)、⑨(株)トーショー、⑩日本ベーリンガーインゲルハイム(株)、⑪マルホ(株)、⑫第一三共(株)／アストラゼネカ(株)、⑬高園産業(株)、⑭富士フィルムファーマ(株)、⑮エーザイ(株)、⑯サンスター(株)、⑰(株)ツムラ、⑱杏林製薬(株)、⑲小野薬品工業(株)

ク 懇親会

懇親会は、初日の夜、約800名の参加のもと、盛大に開催された。静岡の食材をふんだんに使い、山の幸、海の幸をはじめ、静岡の地酒等を用意した。アトラクションには「大工町大組凧上げ会」「伝馬町て組凧上げ会」合同の檄練り、K's ジャズ・カルテットによるジャズ演奏が行われ、宴を盛り上げた。

日時：10月7日（日）18:00～20:00

会場：オークラアクトシティホテル浜松 4階 平安Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

ケ 関連行事

[日本薬剤師会「都道府県会長協議会」]

日時：10月6日（土）13:30～16:45

会場：オークラアクトシティホテル浜松 3階 チェルシーⅡ

[都道府県薬剤師会歓迎レセプション (welcome party)]

日時：10月6日（土）17:30～19:30

会場：オークラアクトシティホテル浜松 30階 パガニーニ

コ その他

[キッズルーム(託児所)の設置]

延べ38名(10月7日24名、8日14名)利用

[聴覚障害者のための手話通訳者の配置]

13会場で手話通訳24名

[救護室の設置]

会場内設置の救護室の利用者は3名。

協力病院（JA静岡厚生連遠州病院）の利用者は無。

[土産売場]

浜松市土産品協会7店、JA遠州夢先

[取材報道機関数]

38社の取材があった。

【第45回日本薬剤師会学術大会における都道府県別参加登録者数】

[事前登録]

県名	一般	学生	計
北海道	140	2	142
青森県	60		60
岩手県	54		54
宮城県	148	2	150
秋田県	51		51
山形県	40		40
福島県	61	1	62
茨城県	87	2	89
栃木県	78	1	79
群馬県	53	1	54
埼玉県	133	4	137
千葉県	167	5	172
東京都	508	3	511
神奈川県	184		184
新潟県	115	1	116
富山県	30		30
石川県	62		62
福井県	35	1	36
山梨県	20		20
長野県	106		106
岐阜県	114		114
静岡県	1200	3	1203
愛知県	387	3	390
三重県	137	8	145
滋賀県	72	1	73
京都府	94		94

[当日登録]

県名	一般	学生	計
北海道	45	5	50
青森県	8		8
岩手県	12		12
宮城県	24		24
秋田県	10		10
山形県	21		21
福島県	13	1	14
茨城県	16		16
栃木県	28	1	29
群馬県	14		14
埼玉県	36	1	37
千葉県	57	10	67
東京都	233	28	261
神奈川県	107	3	110
新潟県	10	2	12
富山県	5		5
石川県	21		21
福井県	5		5
山梨県	7		7
長野県	33		33
岐阜県	33	3	36
静岡県	154	25	179
愛知県	197	18	216
三重県	55	8	63
滋賀県	14	2	16
京都府	19	2	21

大阪府	417	1	418
兵庫県	296	1	297
奈良県	71	2	73
和歌山県	66		66
鳥取県	18		18
島根県	56		56
岡山県	74		74
広島県	108	1	109
山口県	22		22
徳島県	25		25
香川県	37		37
愛媛県	30		30
高知県	18		18
福岡県	113		113
佐賀県	18		18
長崎県	48	1	49
熊本県	31		31
大分県	19		19
宮崎県	34		34
鹿児島県	23	1	24
沖縄県	10		10
不明			
事前登録計	5,670	45	5,715

大阪府	93	5	98
兵庫県	77	6	83
奈良県	14	2	16
和歌山県	7		7
鳥取県	2		2
島根県	3		3
岡山県	18		18
広島県	29	2	31
山口県	12		12
徳島県	14		14
香川県	13		13
愛媛県	9		9
高知県	10		10
福岡県	45	2	47
佐賀県	5		5
長崎県	8	1	9
熊本県	12	1	13
大分県	9		9
宮崎県	13		13
鹿児島県	6		6
沖縄県	12		12
不明	11		11
当日登録計	1,600	128	1,728

区分	一般	学生	合計
事前登録	5,670	45	5,715
当日登録	1,600	128	1,728
計	7,270	173	7,443

懇親会	一般
事前登録	539
当日登録	81
計	620

### 【第45回日本薬剤師会学術大会における一般演題採択件数一覧】

	口頭	ポスター	計	備考
申込数合計	179	367	546	
採択	169	332	501	
採択（条件付き）	5	18	23	講演要旨原稿の一部 訂正を条件に採択
不採択	4	15	19	
取り下げ	1	2	3	

01. 医薬品適正使用	10	16	26	
02. 後発医薬品	7	5	12	
03. 医療安全対策・リスクマネジメント	9	28	37	
04. 副作用・イベントモニタリング	5	9	14	
05. 相互作用	1		1	
06. 薬局製剤・院内製剤	1	3	4	
07. 調剤技術		7	7	
08. 服薬指導・薬歴管理	12	40	52	
09. 薬剤情報提供	3	11	14	
10. コミュニケーション	4	5	9	
11. 薬局機能	9	17	26	
12. 薬局経営		3	3	
13. 一般用医薬品・セルフメディケーション	1	6	7	
14. 健康食品・サプリメント	1	4	5	
15. 漢方		8	8	
16. 在宅医療・介護	20	32	53	
17. 薬業連携	7	14	21	
18. 医療・福祉・保健連携	11	11	22	
19. チーム医療	9	4	13	
20. ドーピング防止・スポーツファーマシスト		3	3	
21. 学校薬剤師	11	12	23	
22. 薬物乱用防止	6	1	7	
23. 禁煙支援	4	5	9	
24. 特定検診・特定保健指導		1	1	

25. 公衆衛生・地域保健活動	4	10	14	
26. 薬学教育	1	6	7	
27. 早期体験学習		3	3	
28. 実務実習	11	21	32	
29. 生涯学習	6	10	16	
30. IT化	3	6	9	
31. 医薬品情報	2	9	11	
32. 専門薬剤師	1		1	
33. 輸液・経腸栄養管理		1	1	
34. がん化学療法・緩和医療	2	5	7	
35. 感染対策	2	1	3	
36. 薬物動態(TDM・投与設計)	1	2	3	
37. 治験・臨床試験		1	1	
38. 医療倫理			0	
39. 災害医療・危機管理・原発事故対応	6	17	23	
40. 行政			0	
41. 広報		1	1	
42. 流通	1		1	
43. 製薬企業			0	
44. 品質管理・製剤試験		5	5	
45. 環境		3	3	
46. その他	3	4	7	
計	174	350	524	

【第45回日本薬剤師会学術大会分科会／静岡県発表者】

演題番号	演題名	氏名	所属
W-01-04	災害時の活用を考慮したお薬手帳の作成	石川 優子	静岡県薬剤師会
W-02-04	みんなで支える実務実習	山本 勝央	静岡市薬剤師会
W-02-06	実務実習を通じて感じたこと	荒井 輝久	静岡県立大学薬学部薬学科
W-03-03	病院と薬局との情報共有による医療連携～ふじのくにねっとの取り組み	森 典子	静岡県立総合病院 情報管理部
W-08-02	うつ自殺予防対策「富士モデル事業」の実践	廣中 義樹	富士市薬剤師会
W-08-04	少年院における薬物乱用防止への取り組み	近藤 司	静岡市薬剤師会
W-09-02	緩和薬物療法認定薬剤師 ～在宅医療推進において大きな力を発揮しよう～	後藤 敏也	磐田市立総合病院薬剤部
W-09-04	がん専門薬剤師に求められるものは何か？	石川 寛	静岡県立静岡がんセンター薬剤部副主任
W-11-05	在宅医療において薬剤師に期待される役割	村田 雄二	静岡県介護支援専門員協会会長
W-12-02	がんプロフェッショナル養成プランの成果と課題	大西 一功	浜松医科大学腫瘍センター教授
W-12-05	外来通院・在宅療養患者に対する保険薬局薬剤師の介入責任と今後の課題	前堀 直美	レーベンファーマシー・レモン薬局

【第45回日本薬剤師会学術大会口頭発表／静岡県発表者】

演題番号	演題名	氏名	所属
0-07-05-03	薬局薬剤師による心電図モニタリング	篠崎 幸喜	ひくま薬局
0-07-05-08	浜松市薬剤師会「くすりの相談室」の相談受付状況と相談窓口としての役割	荒井 裕子	社団法人浜松市薬剤師会 医薬分業推進支援センター浜松
0-07-07-12	保険薬局での血圧測定における硬性腕帯と軟性腕帯の比較検討	小野 さかえ	石川薬局・沓谷店

0-07-19-10	保険薬局における腎機能検査値に基づいた処方監査の現状と今後の課題	鈴木 寛	メディオ薬局丸子店
0-07-19-14	薬局薬剤師を対象にした在宅緩和ケア薬剤師養成プログラム構築の試み	池田 靖啓	(一社) 沼津薬剤師会在宅介護委員会
0-07-19-18	回収業務から学んだ卸の責務 ～医薬品安全対策の一翼を担うために～	金原 亜由実	株式会社スズケン 静岡営業部
0-08-05-05	骨粗鬆症患者への在宅自己注射製剤(テリパラチド)の使用実態調査	竹端 尚美	(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局
0-08-05-12	市内統一版お薬手帳「かかりつけ手帳」の作成と活用について ～地域医療への薬剤師としての貢献～	成岡 厚英	島田薬剤師会
0-08-06-01	アリス薬局グループにおける「ヒヤリ・ハット事例」と予防対策	佐藤 亮太	アリス薬局グループ

【第45回日本薬剤師会学術大会ポスター発表／静岡県発表者】

演題番号	演題名	氏名	所属
P-014	薬局メディスン静岡本店の疑義照会内容の変化	和田 久仁恵	(株) 静岡メディスン
P-036	「一般名処方」に対する注意点の検討と対応	井出 大介	アリス薬局グループ
P-050	塩酸ドネペジル服用に伴い延長したQTcが相互作用薬の変更により短縮した一例	篠崎 幸喜	ひくま薬局
P-051	精神科薬剤服用患者に対する携帯型心電計を用いた心毒性管理	加茂 慎哉	レモン薬局ハート店
P-056	薬局で収集した味覚異常の症例	田畑 尚子	株式会社静岡メディスン
P-058	静岡民医連におけるイベント情報収集活動と分析から見える課題	米澤 由希子	静岡健康企画ひまわり薬局
P-067	割線入り錠剤における分割方法の検討	松山 耐至	J A 静岡厚生連 静岡厚生病院薬剤部
P-073	貧血患者におけるムズムズ脚症候群潜在患者の調査	河野 賢一	株式会社あおい調剤
P-085	前立腺肥大治療における $\alpha 1$ 遮断薬の服薬アドヒアランスに関する後ろ向きコホート調査	田代 康壽貴	まごころ薬局道原店
P-104	湿布薬の使用感調査、服薬指導への活用	大代 純也	(株) 静岡メディスン
P-130	ブラウンバッグ運動によるサプリメントやOTC薬を含む総合的な服薬指導と薬局の役割	瀧野 奈緒子	株式会社はいやく
P-135	調剤併設ドラッグストアにおける不足薬の実際	深津 英人	杏林堂薬局
P-136	SPO <sub>2</sub> を活用しての服薬指導の取り組みについて	矢元 和樹	株式会社アインメディカルシステムズ・アイン薬局藤枝店
P-143	改定による「一般名処方」と「薬剤服用歴管理指導料」の動向と課題	福土 玄	ファーマスクエア株式会社 わかば薬局藤枝店
P-172	アルツハイマー型認知症患者さんの在宅介護・施設介護～薬局としての取り組みと認知症薬の効果の検討～	太田 美和子	ポピー薬局

P-177	嚥下困難な在宅療養および施設入所患者の食事・栄養に対する保険薬局薬剤師の関わり方	野田 一樹	メディオ薬局大岡下石田店
P-186	医師、訪看、ケアマネと連携した薬剤師訪問活動のまとめ その2	中村 ほなみ	(有)静岡健康企画 たまち薬局
P-191	薬局内での在宅医療に向けての取り組み	田村 優	(株) 静岡メディスン
P-213	静岡がんセンター連携よろず相談薬局モデル事業について	小笠原 瑞穂	静岡県薬剤師会 よろず相談薬局グループ
P-216	突合点検情報の社内共有化	野嶋 芳紀	杏林堂薬局
P-218	沼津薬剤師会における歯科医師会との連携活動	佐々木 千絵	(一社) 沼津薬剤師会
P-226	スポーツにおける薬剤師の活動～「スポーツ貧血ゼロ宣言！」を推進～	大石 順子	(公社) 静岡県薬剤師会医薬品 情報管理センター
P-231	浜松市学校給食用原材料の細菌汚染について一平成 19 年度～平成 23 年度調査結果より一	石原 由美	(社) 浜松市薬剤師会・学校薬剤師 委員会
P-243	禁煙補助薬脱落例の検証と服薬完遂に向けての対策	大洋 裕彦	(株) 静岡メディスン
P-252	高齢者学級を通して見える高齢者医療の課題	山口 宜子	沼津薬剤師会
P-302	新薬情報の収集・共有の取り組み～新薬アンケートを通じて～	渡邊 啓子	わかくさ薬局大富店
P-304	ジクアス点眼液 3% の処方状況についての調査(よりよい服薬指導を目指して)	島田 和彦	わかくさ薬局長田店
P-305	インクレチン関連薬の治療成績	松野 恒夫	(株) フォーリア
P-307	文書管理ソフト(NQA)を用いた卸DI室の質問回答記録の活用	白井 久美子	中北薬品株式会社薬事管理部
P-308	静岡県薬剤師会からの情報提供の現状と課題～「高齢者くすりの相談室」(事例集)の継続発行と発刊書籍～	久保田 節子	社団法人富士市薬剤師会 医薬品情報室
P-309	卸勤務薬剤師による得意先訪問～地域医療への貢献を目指して～	豊田 喜久子	中北薬品株式会社
P-318	エクセルを用いたハイリスク薬の投与量監査	勝亦 大介	株式会社あおい調剤
P-319	関節リウマチにおけるメトトレキサートの個別化薬物療法を目指した遺伝子多型解析と血中濃度モニタリング	林 秀樹	静岡県立大学薬学部臨床薬効解析 学分野
P-322	静岡県沼津市周辺における空間放射線量測定結果	井出 千重	(一社) 沼津薬剤師会 センター薬局
P-325	東海地震に対する地域薬局の備え	鈴木 孝利	小笠袋井薬剤師会学術委員会
P-332	東日本大震災における静岡県立大学薬学部の災害医療支援	林 秀樹	静岡県立大学薬学部臨床薬効解析 学分野
P-346	家庭における不要医薬品の廃棄に関する調査	岡本 郁美	有限会社ジョーブメディカル
P-347	継続勉強の有無からみえる登録販売者の背景	尾関 佳代子	杏林堂薬局調剤事業部

(2) 第 45 回東海薬剤師学術大会(愛知大会)への参加

医療の最前線で業務を行っている東海四県の薬剤師が、日頃の業務の成果を発表し、講演し、意見交換する東海地区の「東海薬剤師学術大会」を開催し、薬剤師の学術的水準を高めることにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、愛知県において以下のとおり開催された。

期日：12 月 2 日（日）

場所：愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（名古屋市中区丸の内 2-3-1）

参加者数：1,940 人（愛知県 977 人、岐阜県 300 人、静岡県 231 人、三重県 344 人、学生 43 人、その他 45 人）

[シンポジウム／静岡県発表者]

演題：災害現場での活動・対応

発表者：三浦副会長

[研究発表／静岡県発表者]

No.	地域・職域	発表者氏名	所属	題名
1	静岡市	吉岡 優子	たまち薬局	C K D における薬物療法の検討 —薬薬連携を通して—
2	浜松市	加茂 慎哉	レモン薬局ハート店	精神科薬剤服用患者に対する携帯 型心電計を用いた心毒性管理
3	浜松市	大原 浩幸	浜松市薬剤師会	静岡県西部地区における地域糖尿 病療養指導士制度の創立と運営
4	浜松市	松野 恒夫	(株)薬局フォーリア学術 委員会	ラモトリギンによる扁平苔癬
5	浜松市	月井 英喜	浜松市薬剤師会実務実習 小委員会	薬局実務実習における浜松市薬剤 師会としての指導薬剤師へのサポ ートについて

[ポスターセッション／静岡県発表者]

No.	地域・職域	発表者氏名	所属	題名
1	三島市	鈴木 孝一郎	アリス薬局グループ	「一般名処方」に対する注意点の 検討と対応
2	沼津	川村 幸司	メディオ薬局下香貫馬場 店	一般名処方における小児粉薬の先 発品と後発品の味に関する調査
3	沼津	佐々木 千絵	沼津薬剤師会学術委員会	沼津薬剤師会における歯科医師会 との連携活動
4	沼津	渡辺 好司 (代)佐藤 哲哉	沼津薬剤師会	沼津薬剤師会における無菌製剤調 整への取り組み
5	沼津	池田 靖啓	沼津薬剤師会在宅介護委 員会	薬局薬剤師を対象にした緩和ケア 薬剤師養成プログラム
6	北駿	勝間田 尚	アリス薬局グループ	重篤副作用の早期発見に向けて
7	富士市	久保田 節子	富士市薬剤師会医薬品情 報室	静岡県薬剤師会からの情報提供の 現状と課題～「高齢者くすりの相 談室」(事例集)の継続発行

8	富士宮	星 瑞江	レジオン薬局矢立町	調剤薬局での糖尿病患者の「歩こう会」開催の試みー参加前後で患者意識は変化したか？ー
9	清水	杉本 道信	清水薬剤師会	清水薬剤師会 IT 化施策についてクラウドサーバーの導入
10	榛原	生駒 徹	(株)はいやく波津薬局	薬剤師は投薬して終わりか 電話確認とその方法、効果、問題点について検証
11	小笠袋井	籾 祐司	南山堂薬局平田店	日常業務内の単純ミス収集による調剤過誤防止対策および収集による社内意識の向上について
12	浜松市	木下 次郎 (代)楠野 仁志	浜松市薬剤師会薬局委員会	中学生・高校生の模擬薬局調剤体験
13	浜松市	尾関 佳代子	杏林堂薬局	勉強時間の違いからみえる登録販売者の属性
14	浜松市	伊藤 譲	レモン薬局三方原店	学校の文化祭における学校薬剤師活動～薬学生実務実習を兼ねた地域住民への啓発活動～
15	浜松市	堀内 実紀	レモン薬局三方原店	当薬局におけるバニレクリン使用者の禁煙調査
16	薬学技術 公務員	吉野 豪一	静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課	薬事法違反（指定薬物の販売）による合法ハーブ店の告発について
17	薬学技術 公務員	橋本 守	静岡県環境衛生科学研究所	医薬品・医薬部外品の知事承認申請のための技術的支援について
18	薬学技術 公務員	山中 寛次郎	静岡県健康福祉部生活衛生局	東日本大震災における医薬品等製造所の被害状況の調査報告
19	県薬	大石 順子	静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター	静岡県薬剤師会の一般向け相談件数内容の推移と現状

### (3) 日本薬学会等学術団体との連携

平成 24 年度は第 45 回日本薬剤師会学術大会（静岡大会）準備のため、日本薬学会等学術団体との連携は皆無であった。

## II 薬業を通じて医薬品の適正使用等医療貢献に関する事業

### 1 医薬品及び薬剤師の役割に関する正しい知識を広く国民に浸透させるための「薬と健康の週間」事業の推進

厚生労働省、都道府県、日本薬剤師会及び都道府県薬剤師会主催の毎年度実施の「薬と健康の週間」（10 月 17 日～23 日）事業は、医薬品及び薬剤師の役割に関する正しい認識を広く国民に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的としている。

#### (1) 「薬と健康の週間」啓発キャンペーンの実施

薬剤師の役割、医薬品の正しい知識の普及、覚せい剤・大麻・違法薬物等の乱用による弊害、及び「お薬手帳」の携帯を普及・浸透させることを目的に、静岡県薬剤師



会とK-mixによる啓発コラボレーション企画を展開した。

[K-mixによる啓発コラボレーション企画]

- ア 静岡県薬剤師会キャンペーンスポット（1回目）  
内容：「薬物乱用防止」の啓発キャンペーン告知  
期間：9月1日～9月30日
- イ 静岡県薬剤師会キャンペーンスポット（2回目）  
内容：「薬と健康の週間」の啓発キャンペーン告知  
期間：10月1日～23日
- ウ 静岡県薬剤師会「薬と健康の週間」啓発キャンペーン告知（生中継出演）  
番組名：ラジオカー「うごラジ」  
放送日：平成24年10月18日（木）午後0時25分～30分  
内容：防災型「お薬手帳」の携帯啓発について  
出演者：浜松市薬剤師会理事 平山 和徳

(2) 「薬と健康の週間」関連事業への助成

「薬と健康の週間」関連事業を行う5事業に対して所要の助成を行った。

[「薬と健康の週間」関連事業助成一覧]

地域 薬剤師会	事業名	実施主体	開催日	助成額
熱海市薬剤師会	熱海市健康まつり	熱海市	12月9日（日）	50,000円
焼津市薬剤師会	やいづ健康まつり	焼津市	11月17日（土）	25,000円
浜松市薬剤師会	天竜産業観光まつり	浜松市天竜商工会	11月3日（土・祝）	29,586円
	浜北ふれあい広場	浜松市社会福祉協議会	11月11日（日）	21,182円
	第6回くすりと健康フェスタ「ひとつの命を大切に2012」	浜松市薬剤師会	12月9日（日）	50,000円

(3) 日本薬剤師会「薬と健康の週間」統一事業への協力

平成24年度は、国民向け事業として、①薬剤師の役割・業務に関する啓発・広報、②違法ドラッグ（脱法ハーブ等）乱用防止啓発、③医薬品販売制度の遵守徹底、新しい医薬品販売制度の意識についての国民理解の向上のための取り組み、④独立行政法人医薬品・医療機器総合機構の活動に関する広報への協力を掲げ、地域薬剤師会に協力を依頼した。

2 地域・職域薬剤師会主催の健康フェア等への協力

医薬品及び薬剤師の役割に関する正しい認識を県民に浸透させるための地域薬剤師会及び関係団体が実施する健康フェア等に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

(1) 地域薬剤師会主催の健康フェア等への協力

名称：浜松市薬剤師会「第6回くすりと健康フェスタ～ひとつの命を大切に 2012」

期日：12月9日（日）

場所：ギャラリーモール「ソラモ」（浜松市中区）

参加者：曾布川会長、三浦副会長

- (2) 県民総参加の「健康づくり県民運動」を推進する「しずおか健康いきいきフォーラム」への協力

医薬品の適正使用に関するPRや薬学講座など、静岡県薬剤師会が行う健康推進活動に関する情報を提供した。

### 3 高度管理医療機器等の販売業等に係る継続研修会の開催

薬事法で義務付けられている高度管理医療機器等販売業・賃貸業の営業所の管理者等の継続研修を実施し、管理者等の技能向上を図ることにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は以下のとおり開催した。

主催：日本薬剤師会

共催：静岡県薬剤師会

期日：2月10日（日）

場所：静岡商工会議所会館（静岡市葵区）

対象者：高度管理医療機器等の販売業または賃貸業営業管理者（薬事法施行規則第168条）／医療機器修理業の責任技術者（薬事法施行規則第194条）／特定管理医療機器の販売等の営業管理者（薬事法施行規則第175条第2項）

受講者数：254名

内容：① 薬事法その他薬事に関する法令  
② 医療機器の不具合報告及び回収報告  
③ 医療機器の品質管理  
④ 医療機器の情報提供

講師：①は静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課薬事企画班主任 村上 裕隆

②③④は大屋職能対策委員会委員

### 4 医薬品試験検査業務の検討

医薬品試験を通じての薬局・薬剤師の業務、消費者に供給される医薬品の品質確保並びに県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

医薬品試験検査のあり方について検討した。平成25年度への継続課題とした。

### 5 日本薬剤師会「薬剤イベントモニタリング（DEM）」事業への協力

薬局における医薬品の副作用等の情報を迅速かつ的確に収集するための基盤整備事業「DEM」に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は、抗血栓薬（7成分）によるイベント発現等の調査が実施され、県内の薬局に協力を求めた。

その結果、静岡県内の報告は調査票1（個別症例用）が2,267件、調査票2（処方箋枚数用）が232薬局であった。

DEM事業は、薬局薬剤師が医薬品の安全性向上に積極的に参画する活動であり、その成果は医薬分業の社会的有用性を明示する意義を併せ持つものである。

## 6 医療保険制度への対応

保険薬局における調剤報酬請求事務を正しく理解し、保険薬局としての機能と責務を果たすことにより、患者はいつでも安心して適正な保険医療が受けられるようになり、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

### (1) 調剤報酬請求の適正化

#### ア 調剤報酬請求事務講習会の開催

新規登録の保険薬剤師、新たに管理薬剤師となった保険薬剤師等を対象とした。

期日：8月26日（日）

場所：静岡県薬剤師会館

内容：①医療保険制度のしくみ、②保険調剤と保険薬局、③保険調剤の実務、④調剤報酬の算定、⑤調剤報酬の請求、⑥保険薬局に対する各種指導

講師：町田常務理事、板井・角皆・森・池畑職能対策委員会委員

受講者数：123名

#### イ 薬歴管理等に関する地域薬剤師会主催の研修会等への講師の派遣

6地域薬剤師会で実施した。

①スクール形式は延べ2地域薬剤師会、121薬局、144名、②グループ形式は延べ6地域薬剤師会、151薬局、180名が参加した。

#### ウ 東海北陸厚生局実施の保険薬局に対する個別指導において、その措置が「再指導」若しくは「経過観察」であった場合の当該薬局に対する指導の実施

平成23年度において「再指導」若しくは「経過観察」となった5薬局対象の「薬歴管理に関する研修会」を実施した。

期日：7月8日（日）

場所：静岡県薬剤師会館

受講者数：5薬局

### (2) 調剤報酬改定に伴う情報の収集及び提供

次期調剤報酬改定に関する情報の収集を務めた。

### (3) 会報「しずおか」への「社会保険Q&Aコーナー」の掲載

調剤報酬請求事務において点数解釈上把握しておくべき基本的事項や、会員から多数寄せられている疑義事例を掲載した。

### (4) 東海北陸厚生局等による保険薬局対象の「共同指導」、「個別指導」、「集团的個別指導」、「集団指導」、及び保険薬剤師対象の「集団指導」等への立会い

個別指導等が以下のとおり実施され、静岡県薬剤師会から調剤に関する学識経験者として、担当役員等が立ち会った。

また、保険薬局及び保険薬剤師対象の「平成 23 年度指導・監査結果」と、「平成 24 年度指導・監査計画」について、4 月 17 日（火）、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」（静岡市駿河区）にて、厚生労働省東海北陸厚生局静岡事務所と静岡県薬剤師会担当役員による打合せを行った。

【保険薬局個別指導】

回次	期日	場 所
第 1 回	4 月 24 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 2 回	5 月 22 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 3 回	5 月 29 日（火）	静岡県浜松総合庁舎
第 4 回	6 月 20 日（水）	静岡県浜松総合庁舎
第 5 回	6 月 22 日（金）	静岡県静岡総合庁舎
第 6 回	6 月 27 日（水）	静岡県東部総合庁舎
第 7 回	7 月 20 日（金）	静岡県東部総合庁舎
第 8 回	7 月 24 日（火）	静岡県浜松総合庁舎
第 9 回	7 月 27 日（金）	静岡県静岡総合庁舎
第 10 回	8 月 28 日（火）	静岡県浜松総合庁舎
第 11 回	8 月 30 日（金）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 12 回	9 月 21 日（金）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 13 回	10 月 19 日（金）	静岡県東部総合庁舎
第 14 回	10 月 23 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 15 回	10 月 26 日（金）	静岡県浜松総合庁舎
第 16 回	11 月 20 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 17 回	11 月 28 日（水）	静岡県浜松総合庁舎
第 18 回	12 月 18 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 19 回	12 月 21 日（金）	静岡県浜松総合庁舎
第 20 回	12 月 26 日（水）	静岡県浜松総合庁舎
第 21 回	1 月 18 日（金）	静岡県東部総合庁舎
第 22 回	1 月 22 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 23 回	1 月 25 日（金）	静岡県浜松総合庁舎
第 24 回	2 月 22 日（金）	静岡県東部総合庁舎
第 25 回	2 月 26 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 26 回	2 月 26 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

【保険薬局集团的個別指導】

地区	期 日	場 所
中部	11 月 6 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
東部	11 月 9 日（金）	静岡県東部総合庁舎
西部	11 月 22 日（木）	静岡県浜松総合庁舎

【保険薬局集団指導】

回次	期 日	場 所
第 1 回	9 月 5 日（水）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 2 回	2 月 6 日（水）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

【保険薬剤師集団指導】

回次	期 日	場 所
第 1 回	9 月 25 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
第 2 回	2 月 19 日（火）	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

(5) 医療の I T 化に伴う処方せん、薬歴、情報提供書類等の電子化に関する研究

電子薬歴のメリット・デメリットについて研究した。

(6) 保険薬局に必要な「掲示物」等の徹底

薬事法施行規則に定める事項の掲示等について、様式見本を作成し、掲示の徹底について検討した。

なお、本見本は、平成 25 年度において静岡県薬剤師会のホームページへの掲載の予定とした。

(7) 地域薬剤師会社会保険担当国会議の開催

6 月 17 日（日）、静岡県薬剤師会館にて担当国会議を開催した。

7 コミュニケーションスキルアップ講習会の開催

薬局薬剤師のコミュニケーション技能を高めることによって、患者は薬剤師に気軽に相談できるようになり、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

【第 1 回目】

期日： 4 月 8 日（日）

場所： 静岡県薬剤師会館

内容： 「薬剤師のコミュニケーションスキル向上のための講習会…女子アナウンサーに学ぶ、プロの話術」

講師： S B S 静岡放送アナウンサー 水野 涼子

受講者数：98 名

【第 2 回目】

期日： 2 月 17 日（日）

場所： 静岡県薬剤師会館

内容： ①コミュニケーションスキルの原因による最近おきた事例について

②コーチングで超簡単！コミュニケーションスキルアップ

講師： 岡田常務理事／栃木県薬剤師会副会長 大澤 光司

受講者数：63 名

### Ⅲ 公衆衛生の普及及び指導に関する事業

1 静岡県血液事業（献血推進キャンペーン）への協力

静岡県の静岡県献血推進計画に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

静岡県献血推進協議会に参画するとともに、7 月 31 日（火）、グランシップ（静岡市駿河区）にて開催の「静岡県献血推進大会」に参加した。

2 医薬品の正しい知識の普及と、シンナー・覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止のための「薬学講座」の実施

小学生、中学生及び高校生に対し、医薬品の正しい知識の普及を図るとともに、シンナー・覚せい剤・大麻等の乱用による弊害を周知し、薬物乱用防止の徹底を図ることに

より、生徒の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

違法ドラッグによる健康被害が若者を中心に急増していることは憂慮すべきことであり、平成 24 年度は、講座の内容に「違法ドラッグ」を追加した。これを受け、違法ドラッグのチラシを作成し、中学校及び高等学校に配布した。

平成 24 年度の実施率は 98%、実施校数は 949 校（内訳：小学校 504 校、中学校 292 校、高等学校 139 校、その他の学校 14 校）／972 校、受講者数は 210,573 名（児童・生徒、教諭及び保護者等）でありほぼ例年どおりであった。

### 3 学校薬剤師の職務の推進と資質向上のための「学校薬剤師講習会」の開催

学校薬剤師の資質向上を図り、もって学校保健活動を適切に行うことにより、生徒の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、違法ドラッグに対する理解を深め、また静岡県における薬物乱用の現状を知るとともに、学校保健安全法の周知を図るため「学校薬剤師講習会」を開催した。

期日：4 月 22 日（日）

場所：静岡県薬剤師会館

講義 1 「違法ドラッグとは？」 「静岡県における薬物乱用の現状」

講師：静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課薬物対策班班長 降籬 昌彦

講義 2 「学校保健安全法とくすり教育について」

講師：細野常務理事

受講者数：71 名

### 4 「学習指導要領」の改訂に伴う学校薬剤師による学校保健教育への支援

中学 3 年生の保健体育における「くすり教育」を支援することによって、生徒の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度から全面実施となった中学校における「くすり教育」に関する調査の実施を検討したが、授業への口出しになりかねないため、三島市薬剤師会、沼津薬剤師会、富士市薬剤師会及び静岡市薬剤師会の学校薬剤師担当者に依頼して、担当の保健体育の教諭が「不安に思うこと」「あればいいと思うツール」等について聞き取り調査を行った。

その結果、有効な回答は少なく、具体的な支援には至らなかった。

### 5 ホームページ学校薬剤師サイトのリニューアル

静岡薬剤師会のホームページに、学校薬剤師に関するサイトを掲載することにより、生徒の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、薬学講座用の講師用パワーポイント及び資料一覧を更新した。

### 6 地域薬剤師会学校薬剤師担当者会議の開催

1 月 27 日（日）、静岡県薬剤師会館にて開催した。

### 7 静岡県の「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」への協力

「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」に協力することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

11 月 17 日（土）、袋井市立中央公民館にて開催の「平成 24 年度静岡県薬物乱用防止

県民大会」に参加した。

#### IV 薬事衛生の普及及び啓発に関する事業

##### 1 会報「しずおか」の発行

静岡県薬剤師会の理事会報告や委員会報告、活動報告のほか、薬剤師業務に必要な薬事及び健康保険に関する各種のお知らせなどを掲載する静岡県薬剤師会会報「しずおか」を年6回発行し、薬剤師の知識の向上を図ることにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

『巻頭言』は役員に、また、地域薬剤師会には、会報の表紙写真の提供と、地域薬剤師会主催（又は協賛・後援・協力）の市民向けイベントの告知や、薬剤師対象の各種の研修会・講演会のお知らせ、各種活動の報告、出来事、雑感などの投稿を、執行部には各種研修会等の報告書の投稿を依頼した。その他静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課、静岡県国民健康保険団体連合会等から寄稿があった。

また、昨年度に引き続き、平成24年10月7日（日）・8日（月・祝）開催の「第45回日本薬剤師会学術大会」をPRするためのカウントダウンコーナー及び終了後の大会報告を掲載した。

##### 2 ホームページの充実

静岡県薬剤師会のホームページに、薬剤師業務に必要な薬事及び健康保険に関する各種のお知らせや、一般の方が医薬品を正しく安全に使用していただくための情報を掲載、公表し、薬剤師の知識の向上及び県民への知識普及を図ることにより、薬事衛生及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

薬剤師向けの薬剤師職能を発揮していただくための情報と、一般向けの医薬品等を正しく安全に使用していただくための情報を随時掲載した。ホームページへのアクセス回数は525,633件であった。

##### 3 報道機関等内外コミュニケーション活動（情報発信）の推進

薬局・薬剤師の役割に関する正しい知識を広く一般県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は、10月7日付け中日新聞朝刊に「お薬手帳」に関するPR広告を掲載したほか、3月31日付け静岡新聞朝刊に「かかりつけ薬局」に関する啓発広告を掲載した。

また、平成25年4月より、毎月第4火曜日の静岡新聞夕刊の健康面に掲載予定の静岡新聞社企画の連載コラム「ちょっと得するクスリの知識」の先行企画として、平成25年3月に防災型「お薬手帳」に関する記事を掲載した。

[広告]

掲載日	紙面	内容
10月7日（日）	中日新聞朝刊	『お薬手帳』があなたを守ります！

3月31日(日)	静岡新聞朝刊	ご相談ください、 お近くの薬局・薬剤師に。
----------	--------	--------------------------

- 4 医薬品の適正使用に関するラジオ、一般新聞等マスコミ等への協力  
 薬局・薬剤師の役割を広く県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的としている。

[取材への対応]

掲載・放送日	報道機関等	内容	対応者
5月12日(土)	静岡第一テレビ (番組名：地震防災チェック)	地震防災チェック	石川優子前副会長
5月29日(火)	静岡新聞社 (静岡新聞夕刊)	「市販薬のインターネット販売を認める判決」に関する取材	植常務理事
7月1日(日)	メディアファーム(株) (情報誌：Excellent Pharmacy)	防災型「お薬手帳」	西澤専務理事
7月12日(木)	静岡第一テレビ (番組名：news every. しずおか)	薬物乱用防止教室(薬学講座)	細野常務理事 倉橋健先生 (磐田薬剤師会)
8月9日(木)	読売新聞社 (読売新聞朝刊)	防災型「お薬手帳」	西澤専務理事
9月1日(土)	(株)メディカルトリビューン(第45回日本薬剤師会学術大会プレ特集号)	第45回日本薬剤師会学術大会	曾布川会長
10月1日(月)	(株)薬事日報社 (薬事日報)	第45回日本薬剤師会学術大会 防災型「お薬手帳」	曾布川会長 明石副会長
10月7日(日)	静岡新聞社 (静岡新聞朝刊)	曾布川県薬会長と松井静岡新聞社・静岡放送会長との対談	曾布川会長 明石副会長
3月6日(水)	静岡新聞社 (静岡新聞夕刊)	防災型「お薬手帳」	西澤専務理事 石川優子前副会長

[雑誌への執筆]

出版社	雑誌名	執筆者
医歯薬出版(株)	「臨床栄養」Vol 121	西澤専務理事
(株)じほう	「調剤と情報」第19巻第1号	岡田常務理事、加藤剛前理事

#### 5 薬事法遵守の徹底

##### (1) 一般用医薬品販売制度に関する掲示物等の掲示及び情報提供等の徹底

一般用医薬品の購入者に対し、医薬品を正しく使用するために必要な注意事項等の情報を提供し、購入者からの相談に対応できるよう、一般用医薬品販売制度に関する掲示物等の掲示及び情報提供等の徹底を図り、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

薬事法施行規則に定める事項の掲示等について、様式見本を作成し、掲示の徹底について検討した。



なお、本見本は平成 25 年度において静岡県薬剤師会のホームページへの掲載の予定とした。

(2) 一般用医薬品販売に関する講習会の開催

一般用医薬品の購入者に対し、医薬品を正しく使用するために必要な注意事項等の情報を提供し、購入者からの相談に対応できるよう、一般用医薬品の販売に関する知識及び技能の向上を図り、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

医薬品販売制度の実効性のより一層の確保を図るため、薬局等対象の「改正薬事法の法令遵守と一般用医薬品販売に関する講習会」を開催した。

期日： 3月10日（日）

場所： 静岡県薬剤師会館

内容： ①平成 23 年度一般用医薬品販売制度定着状況調査の結果について  
②臨床判断と薬剤師 ～症候学とトリアージを学ぼう～

講師： 岡田常務理事、松永職能対策委員会委員

受講者数： 75 名

6 日本薬剤師会制定「都道府県薬剤師会基準薬局制度」の推進

保険調剤、セルフメディケーション、薬学教育など薬局機能を総合的に発揮できる薬局を、静岡県薬剤師会が基準を定めて認定することにより、患者が安心して薬局を選択し、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

(1) 基準薬局の新規・更新認定業務

日本薬剤師会制定の基準薬局制度は平成 2 年の制度発足から 23 年目を迎え、静岡県薬剤師会の認定基準薬局数は、平成 25 年 3 月 31 日現在で 278 薬局となった。

< 基準薬局数 >

地域 薬剤師会	H24. 3. 31 現在認定 薬局数 (a)	平成 24 年度における認定状況							H25. 3. 31 現在認定 薬局数 (a+b-c-d)
		新 規		更 新					
		申請 薬局数	認定 薬局数 (b)	対象 薬局数	申請辞退 薬局数 (c)	申請 薬局数	認定 薬局数	未認定 薬局数 (d)	
賀 茂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊東市	3	0	0	1	0	1	1	0	3
熱 海	3	0	0	1	0	1	1	0	3
田 方	5	0	0	0	0	0	0	0	5
三島市	11	0	0	6	0	6	6	0	11
沼 津	33	0	0	8	3	5	5	0	30
北 駿	1	0	0	1	1	0	0	0	0
富士市	6	0	0	2	1	1	1	0	5
富士宮	1	0	0	0	0	0	0	0	1
清 水	23	0	0	4	1	3	3	0	22
静岡市	30	0	0	12	0	12	12	0	30
焼津市	12	0	0	7	2	5	5	0	10
藤 枝	4	0	0	2	1	1	1	0	3
島 田	7	0	0	1	0	1	1	0	7

榛原	2	0	0	2	0	2	2	0	2
小笠袋井	59	1	1	34	5	29	29	0	54
磐田	18	0	0	6	1	5	5	0	17
浜松市	79	0	0	22	4	18	18	0	75
計	297	0	0	109	19	90	90	0	278

## (2) 静岡県薬剤師会における新たな認定基準薬局制度の創設の検討

処方せん受取率が 65%に達し、ほぼすべての薬局において処方せんの応需が可能となった状況に鑑み、日本薬剤師会は目的が達成されたものと判断し、本制度は平成 26 年度（平成 27 年 3 月）をもって発展的に解消されることになった。

これを受け、静岡県薬剤師会は平成 27 年 3 月 31 日をもって基準薬局制度の廃止を決定した。

## V 地域医療への貢献及び医療安全の確保に関する事業

### 1 医薬品情報誌の発行の検討

薬剤師業務に必要な医薬品に関する情報誌を発行し、薬剤師の知識の向上を図ることにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

未だ発行には至らず継続課題とした。

### 2 日本アンチ・ドーピング機構「スポーツファーマシスト」養成事業への協力

スポーツ競技者等に対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育等に関する普及・啓発を行う公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構公認の「スポーツファーマシスト」を養成し、スポーツにおけるドーピングを防止することにより、競技者の健全なスポーツ活動や健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、日本アンチ・ドーピング機構主催の「平成 24 年度公認スポーツファーマシスト認定制度基礎講習会」に担当役員を派遣するとともに、「平成 24 年度公認スポーツファーマシスト推進委員特別実務講習会」に推進委員 3 名及び担当役員 2 名を派遣した。また、静岡県薬剤師会として「公認スポーツファーマシスト認定プログラム実務講習会」を実施した。

なお、講習会形式による同実務講習会は、平成 24 年度をもって終了することとなり、平成 25 年度以降は日本アンチ・ドーピング機構による「Eラーニング形式」となった。

[平成 24 年度公認スポーツファーマシスト認定制度基礎講習会]

期日：6 月 23 日（水）

場所：東京ビッグサイト レセプションホール A B（東京都江東区）

出席者：伊藤常務理事、原田常務理事

[平成 24 年度公認スポーツファーマシスト推進委員特別実務講習会]

期日：11 月 30 日（金）

場所：品川フロントビル会議室（東京都港区）

出席者：天野常務理事、伊藤常務理事、原田常務理事、加藤 剛（三島市薬剤師会）、橋本達広（浜松市薬剤師会）

[平成 24 年度公認スポーツファーマシスト認定プログラム実務講習会]

主催：日本アンチ・ドーピング機構

共催：静岡県薬剤師会

期日：1 月 19 日（土）

場所：静岡県薬剤師会館

受講者数：90 名

内容：講演 1 「禁止表国際基準の改訂点について」／講師：原田常務理事

講演 2 「今後のスケジュール及びスポーツファーマシスト事務局からのお知らせ」／講師：伊藤常務理事

3 医薬品情報管理センターの運営

医薬品に関する情報の収集及び解析を行い、県民から医薬品等に関する相談や苦情を応需し、医薬品に関する正しい情報を提供することにより、県民の健康な生活及び向上に寄与することを目的としている。

(1) 医薬品及び健康食品に関する情報の収集及び解析

雑誌、書籍、データベース等を利用して、医薬品及び健康食品に関する情報の収集及び解析を行った。

(2) 医薬品に関する有用な情報の会務組織及び関係機関・団体への提供

静岡新聞のみならず、「静岡県歯報」など関係諸雑誌への掲載等により、広く情報を提供することによって、薬の正しい使い方を啓発した。

具体的には、静岡新聞「薬の相談室」コーナーに 26 回、静岡新聞「健康 Q & A」コーナーに 11 回、関係諸雑誌に 7 回掲載したほか、各種の講演会に協力した。

(3) 患者及び家族等が抱える医薬品等に関する相談・苦情の応需

前年度に引き続き「高齢者医薬品等の安全使用推進事業」を実施した。

高齢者医薬品等安全使用推進事業は、医薬品等の安全使用を推進するため、高齢者及びその家族が抱える医薬品等に関する相談・苦情に応ずるとともに、医薬品を安全かつ的確に使用するために必要な情報を広く県民に提供することを目的としたもので、県内 4 箇所（富士・静岡・浜松各地域薬剤師会及び県薬）の医薬品情報管理センター内の「高齢者くすりの相談室」において医薬品情報の提供及び相談活動を実施した。

【高齢者くすりの相談室相談件数】平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

区分		県薬窓口	東部窓口	中部窓口	西部窓口	計
相談 件 数		4,898	161	918	480	6,457
	本人	3,875	122	701	393	5,091
	家族等	1,023	39	209	87	1,358
	不明	0	0	8	0	8
性 別	男性	2,853	56	234	171	3,314
	女性	2,045	105	662	309	3,121
	不明	0	0	22	0	22
本 人	60 歳代	551	60	195	113	919
	70 歳代	566	43	194	121	924

の 年 齢	80歳代	42	15	74	26	157
	90歳代	8	2	5	1	16
	その他・不明	3,731	41	450	219	4,441

—相談内容別件数—

内 容	県薬	東部	中部	西部	計
薬の適正使用に関すること	1,761	54	488	184	2,487
薬のはたらきに関すること	1,617	89	283	153	2,142
健康食品、食品添加物に関すること	1,021	7	10	20	1,058
その他保健衛生に関すること	499	11	137	123	770
計	4,898	161	918	480	6,457

—相談者住所別件数—

静岡市	2,201	焼津市	84	湖西市	44	長泉町	61
浜松市	1,338	掛川市	81	菊川市	77	小山町	14
沼津市	125	藤枝市	67	伊豆の国市	26	吉田町	54
熱海市	89	御殿場市	29	東伊豆町	32	川根本町	68
三島市	65	袋井市	88	河津町	28	森町	66
富士宮市	70	下田市	23	南伊豆町	25	他県・不明	1,084
伊東市	27	裾野市	12	松崎町	33		
富士市	204	伊豆市	55	西伊豆町	29		
島田市	31	御前崎市	36	函南町	38		
磐田市	103	牧之原市	27	清水町	23	計	6,457

【医薬品情報管理センター（室）相談・質問件数】平成24年4月～平成25年3月

窓口	一般	薬局	病・医院	公共機関	卸	計
県薬	4,898	564	211	361	75	6,109
東部地区	161	58	8	16	1	244
中部地区	918	14	4	1	0	937
西部地区	480	127	66	681	15	1,369
計	6,457	763	289	1,059	91	8,659

—内容別質問件数—

内 容	県薬	東部 地区	中部 地区	西部 地区	計
1. 医薬品の副作用・相互作用	603	66	327	171	1,167
2. 妊産婦・授乳婦の薬の服用	101	12	11	19	143
3. 医薬品の用法	355	12	194	77	638
4. 医薬品の成分・薬理・適応症	520	53	203	175	951
5. 医薬品の製剤的事項	398	8	17	41	464
6. 民間薬・漢方薬	89	5	1	2	97
7. 鑑別	5	0	0	3	8
8. 消毒薬	12	1	2	2	17
9. 治験薬・市販薬の有無	16	5	1	12	34
10. 疾病・症状	432	20	81	82	615
11. 臨床検査	11	17	26	7	61
12. 食品・健康食品・食品添加物	598	4	9	51	662
13. 医薬部外品・化粧品・洗剤	63	3	2	5	73
14. 農薬・園芸・殺虫剤・動物薬	23	0	1	2	26
15. 医療用具・健康器具	11	0	0	3	14
16. 毒性・中毒事故・公害・産業中毒	66	3	3	12	84

17. 化学薬品・試薬	49	5	0	4	58
18. 法規・薬事関係	301	16	9	32	358
19. 文献依頼	1,289	14	2	41	1,346
20. その他	1,167	0	48	628	1,843
計	6,109	244	937	1,369	8,659

(4) 「高齢者くすりの相談室Q&A」第17集の発行

医薬品情報管理センター（高齢者くすりの相談室）に寄せられた相談事例集（第17集、6,000部発行）を作成し、希望者（一般県民）及び関係機関等に配布した。

[高齢者くすりの相談室第17集：目次]

区分	質問	サイドメモ
薬の正しい使い方	Q1 薬の種類と注意	冷感湿布と温感湿布の使い分け
	Q2 「水なしでのめる薬」とは	薬は包装シートから出して服用を…うっかり事故に注意！
	Q3 一般名処方と後発医薬品	
病気と薬	Q4 ドライアイの治療薬	ドライアイを薬局で対応する
	Q5 透析患者のかゆみ	
	Q6 痛みに新しい鎮痛薬	WHOによる3段階除痛ラダーとは
	Q7 骨粗しょう症の新しい治療薬	思春期の体重が大切
	Q8 インフルエンザの治療薬	インフルエンザによる出席停止期間は？
	Q9 夜尿症の薬	夜尿症治療に朗報！新しい内服薬
副作用	Q10 自動車の運転と薬	チャンピックスをのんだら運転禁止？！
	Q11 重篤な副作用	患者副作用報告が開始されます
健康食品	Q12 片頭痛にバターバー（西洋フキ）？	コチニール色素でアレルギー
	Q13-1 アンチエイジングのサプリメント・健康食品	アンチエイジング医学とは？
	Q13-2 アンチエイジングのサプリメント・健康食品	
その他	Q14 肺炎球菌ワクチンの2回目	新しい予防接種
	Q15 妊娠中の薬	授乳と薬の相談は

(5) 医薬品情報管理センター（室）実務担当者会議の開催

富士市薬剤師会、静岡市薬剤師会、浜松市薬剤師会及び静岡県薬剤師会の医薬品情報管理センター（室）所属の実務担当者による会議を開催し、情報交換を行った。

[実務担当者会議]

回次	期日	場所
第1回	4月26日(木)	浜松市薬剤師会医薬分業推進支援センター浜松
第2回	5月17日(木)	静岡県薬剤師会館
第3回	6月21日(木)	浜松市薬剤師会医薬分業推進支援センター浜松
第4回	7月25日(木)	静岡県薬剤師会館
第5回	8月30日(水)	浜松市薬剤師会医薬分業推進支援センター浜松
第6回	11月22日(木)	浜松市薬剤師会医薬分業推進支援センター浜松

(6) 医薬品情報管理センターのあり方の検討

医薬品情報管理センター運営委員会において協議し、次のとおり決定した。

- ① 医薬品情報管理センター運営規程第3条に定める業務は、静岡県内を基本とする。
- ② 医薬品情報管理センターの事業計画は、毎年度運営委員会において協議し、その結果を理事会に報告する。
- ③ 医薬品情報管理センターに寄せられた医薬品等に関する相談・苦情は、「相談記録」を作成し、保存する。
- ④ 医薬品情報管理センターの職員は、「業務日誌」（日報）を作成し、保存する。

#### 4 調剤過誤防止対策の推進

薬局に従事する薬剤師に対し、調剤過誤防止対策や医療安全に関する講習等を行い、適切に調剤業務を行うことにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

##### (1) インシデント事例の収集及び提供

薬局における調剤過誤防止対策の強化を図るため、9月1日から7日までの間、インシデント事例の収集を行い、その結果を公表することにより、さらなる調剤過誤防止の徹底を図った。

平成24年度は、インシデント事例のほか、「モノ」に起因するインシデントの実例も併せ収集した。

##### < 県薬インシデント報告の分析 >

収集期間：9月1日～9月7日 / 収集件数：延 245 件（複数回答含む）

インシデント事例の内容	件数
1. 錠剤・カプセル剤等の計数の誤り	68
2. 散剤・液剤の秤量・計量の誤り（倍算の計算間違い等を含む）	9
3. 同じ医薬品の規格の誤り	49
4. 他薬を調剤	36
5. 禁忌、相互作用等の見落とし	1
6. 処方せんの記載ミスに気付かず調剤	2
7. 一包化の間違い	1
8. 他薬・異物等の混入	0
9. 調剤漏れ	12
10. 交付漏れ	4
11. 薬袋の入れ間違い	1
12. 交付相手の間違い	2
13. 薬剤情報提供文書・薬袋の記載ミス	6
14. 服薬指導の誤り	0
15. その他	20
16. 「モノ」に起因するインシデント	34
計	245

##### (2) 調剤過誤防止・医療安全管理講習会の開催

「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」が平成18年6月に公布され、調剤を実施する薬局が「医療提供施設」となった。これに伴い、薬局における「医薬品等の安全管理体制」の整備が義務付けられ、年2回程度の従業者に対する安全管理のための研修会の実施が義務化された。

これを受け、「調剤過誤防止・医療安全管理講習会」を開催した。

期日： 12月8日（土）

場所： 静岡商工会議所会館（静岡市葵区）

内容： ①平成 24 年度静岡県薬剤師会インシデント事例収集の結果報告分析から、傾向と対策、②「モノ」に起因するインシデントの事例、③公益財団法人日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への参加のお願い、④当薬局の取り組み

講師：岡田常務理事／杉浦職能対策委員会委員

受講者数：137名

(3) 日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への協力

日本医療機能評価機構が医療機関から報告を受けているヒヤリ・ハットの事例データでは、約3割（平成20年データ値）が薬剤に関するものである。

そのため、国は健康被害を引き起こしそうな「ヒヤリ」や「ハッ」とした事例等を、収集・分析し提供することにより、広く薬局が医療安全対策に有用な情報を共有するとともに、国民に対して情報を提供することを通じて、医療安全対策の一層の推進を図ることを目的に、「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」を実施している。

3月31日現在の静岡県内の参加登録薬局数は171軒であった。

5 医療機関毎の「後発医薬品変更報告書」「疑義照会用紙」等の書式の収集及び提供

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

検討した結果、「標準書式」の作成をもって対応することとなり、書式の提供は中止とした。

6 医療機関に対する「後発医薬品変更報告書」「疑義照会用紙」等諸用紙の標準書式の作成の検討

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成25年度への継続課題とした。

7 薬局における偽造処方せん及び多重受診患者に関する情報の収集及び対応

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

カラーコピーによる偽造処方せんが発生したため、本会会員への注意喚起を行った。

【偽造処方せん情報】

①フスコデ配合シロップ9ml、10ml（平成24年7月／焼津市）

②エリミン錠5mg（平成24年12月／浜松市）

## 8 地域医療の推進

### (1) 地域医療連携に関する情報の収集及び提供のあり方の検討

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

静岡県医療審議会及び静岡県保健医療計画作業部会に参画した。

#### < 静岡県医療審議会 >

回次	期日	場所	出席者
第1回	8月27日(月)	静岡県庁本館(静岡市葵区)	曾布川会長 細野常務理事
第2回	11月30日(金)	ホテルアソシア静岡(静岡市葵区)	曾布川会長 細野常務理事
第3回	3月26日(火)	静岡県庁本館(静岡市葵区)	曾布川会長 細野常務理事

#### < 静岡県保健医療計画作業部会 >

回次	期日	場所	出席者
第1回	7月31日(火)	静岡県産業経済会館(静岡市葵区)	細野常務理事
第2回	11月13日(火)	静岡県庁別館(静岡市葵区)	細野常務理事
第3回	2月21日(木)	静岡県庁別館(静岡市葵区)	細野常務理事

### (2) 医療用麻薬に関する研修会の開催

医療用麻薬を提供する薬局の薬剤師に対し、医療用麻薬に関する知識及び技術の習得を図り、医療用麻薬の適正使用を推進することにより、がん患者の適切な疼痛管理を行い、もって健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

期日：11月11日(日)

場所：静岡県薬剤師会館

内容：①がん疼痛へのアプローチ ～薬剤師に必要な医療用麻薬の知識、②医療用麻薬が処方された外来患者の教育への取り組み ―病院と保険薬局との連携について

講師：聖隷浜松病院緩和医療科医長 森 雅紀／聖隷浜松病院看護部次長・がん看護専門看護師 番匠 千佳子

受講者数：121名

### (3) 「お薬手帳」の普及及び啓発

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

静岡県薬剤師会設置の「お薬手帳企画・制作協議会」(静岡県医師会、静岡県歯科医師会、静岡県薬剤師会、静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課で構成)は、全国初の防災型「お薬手帳」を平成23年度において10万部作成し、県内の沿岸部のうち、高齢化率が高い9市5町に所在する薬局や診療所、歯科診療所に無償配布した。

平成24年度は有償用として更に35万部を増刷し、静岡県薬剤師会のホームページ等



において普及啓発に努めた。

その結果、防災型「お薬手帳」の供給部数は、平成 25 年 3 月 31 日現在で 348,900 部となった。

#### (4) 静岡がんセンター連携よろず相談薬局モデル事業の推進

県立静岡がんセンターと連携し、同センターに通院する在宅の患者及びその家族に対して、同センター提供の情報の発信や、薬に関するアドバイスをを行うほか、患者から得た情報を同センターへ伝達することにより、がん患者の地域における生活をサポートし、もって健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、モデル事業参加の 15 薬局における相談事例を基に、今後のモデル事業のあり方等について検討等を行った。

##### ア よろず相談薬局機能の検証並びにあり方の検討

平成 25 年度への継続課題とした。

##### イ 静岡がんセンター主催の静岡がんセンター公開講座、医療連携カルテ閲覧システム研修会、退院カンファレンス、フィジカルアセスメント等への参加

静岡がんセンター主催の「がん診療に携わる医師に対する緩和研修会」の案内を受け、よろず相談薬局が参加した。

また、静岡がんセンター主催の研修会「平成 24 年度臨床腫瘍学コース」「第 4 回在宅医療情報交換会」については、よろず相談薬局に情報を提供した。

##### 【がん診療に携わる医師に対する緩和研修会】

日時：9 月 16 日（日）、17 日（月）

場所：静岡県立静岡がんセンター（駿東郡長泉町）

内容：緩和ケア概論／がん性疼痛の評価と治療／地域の緩和・在宅ケアのリソース／呼吸器・消化器症状／精神症状／予後予測とコミュニケーション

##### ウ 地域包括支援センター及び訪問看護ステーション等との連携

地域包括支援センター及び訪問看護ステーション等からの依頼により、講師を派遣した。また、関係会議等において情報交換を行った。

##### エ 相談事例の収集及び対応

よろず相談薬局における相談件数は 25 件であった。相談事例は「よろず相談薬局打ち合わせ会」において報告があった。

##### オ よろず相談薬局事業実施状況等についての静岡がんセンターと静岡県薬剤師会との意見交換会

##### 【静岡がんセンターと「よろず相談事業」に係る打合せ】

日時：6 月 26 日（火）

場所：静岡県立静岡がんセンター（駿東郡長泉町）

出席者：明石副会長、佐藤・細野常務理事

##### カ よろず相談薬局打ち合わせ会の開催

##### 【静岡がんセンター連携「よろず相談薬局モデル事業」に関する打合せ会】

日時：1月26日（土）

場所：静岡県薬剤師会館

出席者：地域医療部役員2名、よろず相談薬局9名

キ 医療衛生材料等の供給システムの検討

平成25年度への継続課題とした。

#### （5）うつ自殺予防対策の推進

##### ア メンタルヘルスサポート薬剤師育成研修会の開催

薬局の薬剤師に対し、必要な人にうつ病の「気づき」と早期治療への「つなぎ」を促すことができるメンタルヘルスサポーターとしての専門的知識を修得させることにより、うつ病が疑われる医薬品の購入者や相談者にうつ病の早期発見を促し、自殺防止を図ることにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は、以下のとおり実施した。

##### 【平成24年度メンタルヘルスサポート薬剤師育成研修会】

日時：平成25年2月24日（日）

場所：静岡県薬剤師会館 大会議室

説明：静岡県自殺予防対策～ゲートキーパーについて～／静岡県精神保健福祉センター

講演：演題「うつ病ゲートキーパーと自殺予防」／講師：医療法人社団心生 すぎやまメンタルクリニック院長 杉山 卓生

演題「うつ自殺予防対策ゲートキーパーとしての対応事例」／講師：富士市薬剤師会「富士モデル事業」うつ自殺対策室長 廣中 義樹

受講者数：117名

##### イ 「気づき」を高める睡眠キャンペーンの実施

「お薬手帳」を入れる表紙のカバーに、ゲートキーパー広告（チラシ）を差し込み、広報することにより、働き盛りの世代にうつ病の早期発見を促し、自殺の予防を図り、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成24年度は、「お薬手帳」用の表紙カバー50,000部を作成し、これにゲートキーパー広告を差し込み、広く患者に配布した。

#### 9 在宅医療及び介護保険制度への対応

##### （1）介護保険制度改定に伴う情報の収集及び提供

介護保険制度は、原則3年を1期とするサイクルで財政収支を見通し、事業の運営を行っている。よって、この間に保険料の大きな増減が生じると、市町村の事業運営に大きな混乱が生じることから、制度改正は、平成27年度から始まる第6期介護保険事業計画に反映させていくことを念頭においている。引き続き、国の社会保障審議会・介護保険部会の動きに着目したい。

##### （2）在宅医療及び介護保険制度に関する総合的な相談の応需と、苦情相談窓口を紹介す

る「健康介護まちかど相談薬局」事業の推進

薬局の薬剤師に対し、在宅介護に必要な知識、技術を習得させ、薬局における介護に関する総合的な相談応需が出来るようにすることにより、介護を受ける方の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度は、以下のとおり実施した。

ア 健康介護まちかど相談薬局の業務及び体制の検討

平成 25 年度への継続課題とした。

イ 健康介護まちかど相談薬局研修会の開催

平成 24 年度は第 45 回日本薬剤師会学術大会（静岡大会）準備のため、日程の調整が困難となり中止とした。

ウ 臨床体験学習の実施

期日：11 月 25 日（日）

場所：静岡県立大学薬学部棟（静岡市駿河区）

内容：フィジコによるバイタルチェックトレーニング、HPN 体験、血中酸素飽和度測定等

講師：静岡県立大学薬学部教授 山田 浩

指導：静岡県立大学薬学部教授 山田 浩／静岡県立大学薬学部准教授 内田 信也

受講者数：32 名

（3）薬剤師職能を啓発するための医療機関及び介護支援事業所向け「お薬出前講座」の実施

薬剤師が介護サービスを行う事業所に出向き、「薬の基礎知識」「疾患別薬の知識」「薬の飲み方」「副作用・相互作用」「在宅ケアにおける薬剤師の役割」について講義する「お薬出前講座」を行うことにより、要介護者及び要支援者の QOL の向上を図り、もって健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

平成 24 年度の「お薬出前講座」の実施状況は 36 件であった。

（4）静岡県薬剤師会「在宅療養推進アクションプラン」事業の展開

薬事及び健康保険に係る機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

ア 地域薬剤師会における訪問薬剤管理指導業務の応需体制の整備について

在宅訪問実施可能薬局リストを作成し、静岡県薬剤師会のホームページに掲載した。平成 25 年 3 月 31 日現在の在宅訪問実施可能薬局は 131 薬局となった。

イ 地域医療連携の促進（薬局機能・業務の理解促進）について

地域医療に関する多職種との連携の促進を図るため、静岡県医師会が設置する静岡県在宅医療推進センター事業（静岡県在宅医療体制整備・推進協議会及び在宅医療連携システム検討部会）に参画するとともに、介護支援専門員の研修会に講師を派遣した。

< 静岡県在宅医療体制整備・推進協議会 >

回次	期日	場所	出席者
第1回	5月24日(木)	静岡県医師会館(静岡市葵区)	曾布川会長

< 静岡県在宅医療体制整備・推進協議会在宅医療連携システム検討部会 >

回次	期日	場所	出席者
第1回	7月3日(火)	静岡県医師会館(静岡市葵区)	佐藤常務理事
第2回	10月4日(木)	静岡県医師会館(静岡市葵区)	佐藤常務理事

< 会静岡県介護支援専門員協会主催「介護支援専門員研修会」 >

期日	場所	講師
9月5日(木)	グランシップ(静岡市駿河区)	岡田常務理事

ウ 薬局・薬剤師のスキルアップについて

在宅医療に関する研修会制度の構築について検討した。その結果、平成25年度において実施の予定とした。

(5) 静岡県薬剤師会ホームページ在宅医療(介護)サイトの見直し

静岡県薬剤師会のホームページに、在宅医療に関するサイトを掲載することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

「在宅訪問実施可能薬局一覧」を更新した。

(6) 静岡県社会福祉協議会「健康福祉推進ネットワーク」への協力

静岡県社会福祉協議会による「健康福祉推進ネットワーク会議」に参画することにより、県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

薬剤師の立場から、多職種との連携のあり方について意見交換を行った。

(7) 地域薬剤師会在宅医療・介護保険担当者会議の開催

6月9日(土)及び11月18日(日)、静岡県薬剤師会館にて開催した。

10 薬事・健康保険団体・機関が行う医薬分業関係事業への協力

薬事及び健康保険に関係する機関・団体と連携し、医薬分業の質の向上を図ることにより、患者に対して医薬分業のメリットを供与し、もって県民の健康な生活の確保及び向上に寄与することを目的としている。

(1) 社会保険診療報酬支払基金静岡支部の参与及び審査委員

支払基金の「社会保険診療報酬支払基金静岡支部幹事会」の参与として、静岡県薬剤師会の会長が就任し、また、同基金の薬剤師審査委員として担当役員を派遣した。

(2) 静岡県後期高齢者医療懇談会委員

静岡県後期高齢者医療広域連合設置の「静岡県後期高齢者医療懇談会」の保険薬剤師代表委員として、担当役員を派遣した。

(3) 静岡県保険者協議会のオブザーバー

静岡県内の保険者の保健事業等の効果的かつ円滑な事業運営に資するための「静岡県保険者協議会」に、オブザーバーとして担当役員を派遣した。

**VI 災害時等の医薬品の確保及び供給に関する事業**

## 1 災害時における携帯電話情報連絡システムによる連絡網の構築

災害時の被災状況や安否情報を的確に把握するための薬剤師会・会員間の情報連絡システムを導入し、連絡網を構築することにより、災害時における被災状況を速やかに把握し、被災地からの薬剤師派遣要請に迅速に対応することにより、効果的に救護活動を行うことを目的としている。

前年度に引き続き、地域薬剤師会に対し、「携帯電話情報連絡システム」の趣旨説明と利用の方法、デモンストレーションを行うなど、同システムへの登録を呼びかけた。

その結果、3月31日現在で静岡県薬剤師会の会員1,231名（登録率49.8%）の登録が完了した。

## 2 医療救護活動に関する防災訓練の充実

予想される東海地震やその他大規模災害時に速やかに対応できるよう、「携帯電話情報連絡システム」を活用した「災害情報伝達訓練」を実施し、被災地からの薬剤師派遣要請に迅速に対応できるように準備することにより、効果的に救護活動を行うことを目的としている。

### (1) 大規模地震発生時における被害状況調査に関する連絡訓練の実施

8月30日（木）と3月5日（火）の2回、緊急連絡網による「災害情報伝達訓練」（図上訓練）を実施した。今回の訓練は、2回とも駿河湾から遠州灘を震源域とする大規模災害が発生したことを想定しての被害状況調査と、薬剤師派遣に関する情報伝達訓練とした。

8月は地域薬剤師会において会員の応答状況を、3月には地域薬剤師会からの発信状況及び会員の応答状況について夫々集計を行った。2回とも情報発信及び集計作業に多少の時間を要したが概ね良好であった。

携帯電話情報連絡システムの登録者の応答は8月が53.5%、3月は49.6%であった。

### (2) 静岡県総合防災訓練及び地域防災訓練への協力

地域薬剤師会に対し、9月2日（日）実施の「静岡県・磐田市総合防災訓練」（メイン会場：磐田市）、12月2日（日）（静岡県「地域防災の日」）実施の「地域防災訓練」への参加、協力を呼びかけた。

### (3) 静岡県「地震対策オペレーション（大規模図上訓練）」への協力

静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課からの要請により、8月30日（木）、静岡県実施の図上訓練に参加した。

被災地への薬剤師派遣要請を受け、派遣可能薬剤師48名はインターネット回線で報告した。

## 3 薬剤師災害コーディネーターの育成に関する検討

静岡県の第3次被害想定に基づいて確立されている、医療救護のライフラインである医薬品の確保・供給体制や薬剤師の派遣体制を強化するための「薬剤師災害コーディネーター」を育成することにより、効果的に救護活動を行うことを目的としている。

平成23年3月11日の東日本大震災を踏まえ、地域薬剤師会災害対策担当者対象の「薬

剤師災害コーディネーターに関する研修会」を開催した。

また、災害薬事コーディネーター養成のため、地域・職域薬剤師会の同担当者対象の説明会を実施した。

[薬剤師災害コーディネーターに関する研修会]

期日：10月28日（日）

場所：静岡県薬剤師会館

内容：災害現場における薬事コーディネーターの役割について

講師：浜松医科大学附属病院病院教授 吉野篤人

受講者数：56名

[災害薬事コーディネーター養成に関する説明会]

期日：3月31日（日）

場所：静岡県薬剤師会館

内容：静岡県災害薬事コーディネーターの養成について

説明者：静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課技監兼課長代理 杉井 邦好

出席者：38名

#### 4 地域・職域薬剤師会災害対策担当者会議の開催

10月28日（日）、静岡県薬剤師会館にて開催した。

#### 5 都道府県薬剤師会災害対策担当者との連携の検討

災害時における救護活動が十分に実施できない場合に備え、近隣県の薬剤師会との「災害時における相互応援に関する協定」を締結することにより、効果的に救護活動を行うことを目的としている。

平成24年度は神奈川県薬剤師会の担当役員と意見交換を行った。

## <収益事業>

#### 1 毒物劇物取扱者試験準備講習会の開催

毒劇物が適正に管理されることを目的に、毒物及び劇物取締法の規定による毒物劇物取扱者試験の受験者を対象とした「毒物劇物取扱者試験準備講習会」を開催した。

期日：7月21日（土）・22日（日）

場所：静岡県職員会館（もくせい会館）（静岡市葵区）

受講者数：167名

講師：鈴木正広、興津 馨

#### 2 斡旋書籍及び諸用紙の販売

日本薬剤師会及び静岡県薬剤師会が斡旋、販売している書籍は78種であり、平成24年度における販売実績は3,252冊であった。

静岡県薬剤師会が作成、販売している諸用紙は、「明細書（医保・国保共通）」「国保請求書」「後期高齢者請求書」「乳幼児医療費請求書」「処方せん」「業務日誌」「毒物劇物譲受書」「毒薬劇薬譲受書」「薬歴カード」であり、平成24年度における販売実

績は 3,225 冊であった。

### 3 事務室の賃貸

平成 12 年 7 月 1 日、貸主として静岡県薬剤師会、借主として静岡県病院薬剤師会との間に静岡県薬剤師会館の 2 階の事務室 39.75 m<sup>2</sup>を物件とする建物賃貸借契約を締結している。平成 24 年 4 月 1 日付けをもって同契約の継続更新（自動更新）を行った。

## <管理部門>

### 1 地域・職域薬剤師会の法人化の支援

依頼により助言を行った。

その結果、平成 24 年度において「一般社団法人沼津薬剤師会」「一般社団法人藤枝薬剤師会」が設立された。

### 2 会員拡充対策の検討

静岡県薬剤師会会員が所属する薬局（店舗）であることを証明するための薬局向け「静岡県薬剤師会会員章」の作成を検討した。

### 3 地域・職域連絡協議会の開催

#### (1) 地域・職域連絡協議会の開催

期日	場 所
5 月 27 日（日）	クーポール会館（静岡市葵区）
7 月 22 日（日）	静岡県薬剤師会館
2 月 3 日（日）	浜松市薬剤師会

#### (2) 地域ブロック協議会の開催

地区	期 日	場 所	出席者
東部	8 月 2 日（木）	沼津薬剤師会医薬分業推進支援センター	曾布川会長、明石・石川・松山副会長、西澤専務理事、町田・岡田常務理事
中部	8 月 25 日（土）	パルシェ特別会議室（静岡市葵区）	曾布川会長、明石・石川・松山副会長、西澤専務理事、秋山常務理事
西部	7 月 26 日（木）	袋井センター薬局	曾布川会長、明石・松山副会長、西澤専務理事、植常務理事

### 4 危機管理（災害対策を含む）への対応

平成 24 年度は第 45 回日本薬剤師会学術大会（静岡大会）準備のため、災害対策についてのみ対応した。

### 5 薬事功労者、学校保健功労者等の表彰及び推薦

#### (1) 叙勲の受章

静岡県薬剤師会の元副会長 吉永富子氏が永眠され、遺族に叙位叙勲正 6 位が伝達された。

#### (2) 薬事功労者の表彰

薬事衛生の向上等に顕著な功績のあった薬事功労者に対し、その労に報いるための表彰状等の贈呈が行われた。

静岡県薬剤師会会員の受賞者は次のとおりであった。

<厚生労働大臣表彰>

明石 文吾（三島市）

<静岡県知事表彰>

三浦 正人（浜松市）

<日本薬剤師会功労賞>

村越 邦孫（浜松市）

<日本薬剤師会有功賞>

酒井 鍵治（賀茂）、高橋 哲晴（三島市）、渡邊 とし江（北駿）、佐野 澄江（富士市）、内藤 一枝（富士宮）、村松 求己（富士宮）、杉本 敬介（清水）、斉藤 敏隆（静岡市）、田中テル子（島田）、神谷 紀男（磐田）、野田 孝（浜松市）、堀内 佐吉（浜松市）

<静岡県薬事振興会会長表彰>

小池 高秋（沼津）、川口 一雄（富士市）、石田 義郎（静岡市）、木俣 昭（浜松市）  
望月 久司（静岡県病院）

<静岡県薬剤師会会長表彰>

佐藤 英樹（田方）、小島 真（三島市）、廣中 義樹（富士市）、小鷹 和美（清水）  
濱田 恵子（静岡市）、赤堀 恭子（藤枝）、久保田 靖（藤枝）、清水 潤一（島田）  
鈴木 正直（小笠袋井）、生野 正明（浜松市）、楠野 仁志（浜松市）、澤井 康行（浜松市）、品川 彰彦（浜松市）、徳永 大祐（浜松市）、富田 治（浜松市）、花山 雅昭（浜松市）

### （3）薬物乱用防止功労者の表彰

薬物乱用防止の向上等に顕著な功績のあった薬物乱用防止功労者に対し、その労に報いるため感謝状が贈られた。

<厚生労働省医薬食品局長表彰>

花山 雅昭（浜松市）

<静岡県知事褒賞>

山中 清美（富士市）、山本 通代（浜松市）

### （4）学校保健功労者の表彰

学校保健の向上等に顕著な功績のあった学校保健功労者に対し、その労に報いるための表彰状等の贈呈が行われた。

<静岡県学校保健会表彰>

植松 慶司（賀茂）、秋本 佳秀（熱海）、佐藤 絹代（田方）、芹澤 一男（北駿）  
渡辺 恭秀（富士宮）、岡 慶一（静岡市）、繁田 妙子（静岡市）  
本間 久史（小笠袋井）、三浦 正人（浜松市）、宮崎 治（浜松市）  
牧田 道明（静岡県病院）

## 6 日薬共済部、薬剤師年金、薬剤師国民年金基金、薬剤師賠償責任保険及び個人情報漏洩保険への加入の促進

### （1）日薬共済部



日本薬剤師会会員の弔慰金、配偶者弔慰金、火災見舞金及び災害見舞金を支給する制度である。

平成 25 年 3 月末日現在の部員数は、静岡県 180 名（全国 1,864 名）であった。

## (2) 薬剤師年金

①掛金は年齢等に関係なく月払一口 2,400 円（最高 50 口まで）、②終身保障＋遺族年金制度であって、日本薬剤師会の正会員対象の制度である。

平成 25 年 3 月末日現在の加入者数は、静岡県 120 名（全国 6,031 名）であった。

## (3) 薬剤師国民年金基金

老後が安定して、生きがいのある生活を保証する国民年金法による公的年金制度（基礎年金の上乗せ制度）であって、国民年金第 1 号被保険者（満 20 歳以上 60 歳未満の薬局・店舗販売業・配置販売業・卸売販売業に従事されている方）対象の制度である。

平成 25 年 3 月末日現在の加入員数は、静岡県 31 名（全国 955 名）であった。

## (4) 薬剤師賠償責任保険制度

薬剤師が安心して日々の業務に専念できるよう、薬剤師業務における偶然の事故によって、被害者に対して法律上の賠償責任を負うことにより被る損害に対して保険料が支払われるもので、日本薬剤師会の正会員対象の制度である。

平成 25 年 3 月末日現在の加入件数は、薬剤師契約は静岡県 395 名（全国 16,610 名）、薬局契約は静岡県 851 名（全国 26,200 名）であった。

## (5) 個人情報漏洩保険制度

①薬局が管理する個人情報漏洩した場合、被害者への損害賠償だけでなく、お詫び文書の発送など個人情報の漏洩で発生した費用を補償する、②死者の個人情報も補償する、③個人情報の恐れも補償対象となる、④廃棄された個人情報の漏洩も補償する、⑤使用人の犯罪行為による漏洩も補償するものであって、日本薬剤師会の正会員である開設者、法人代表者又は管理薬剤師対象の制度である。

平成 25 年 3 月末日現在の加入件数は、静岡県 194 名（全国 5,673 名）であった。

## 7 静岡県医師会、静岡県歯科医師会、静岡県病院協会、静岡県病院薬剤師会、静岡県薬事振興会等関係団体との連携・協力

静岡県医師会及び静岡県歯科医師会とは、各種関連事業について連携・協調しており、その他保健・医療・福祉関係団体とも関連事業を通じて連携した。

静岡県薬事振興会、静岡県生活科学検査センター、静岡県病院協会、静岡県腎臓バンク、静岡県予防医学協会、静岡県学校保健会の理事又は評議員として役員を派遣するなど、関係団体の事業推進に協力した。

## 8 静岡県薬剤師会館の管理運営

平成 12 年 3 月竣工の「静岡県薬剤師会館」の保守管理を行った。

## 9 各種委員会等の開催

静岡県薬剤師会の執行部組織として総務部、財務部、学術情報部、職能対策部、地域医療部及び学校保健部が設置され、また、会務及び事業の円滑な運営を図るための執行

部の下部組織として委員会等が設置され、夫々所要の会議を行った。

<設置委員会等>

- ・ 組織・会員委員会（総務部）
- ・ 災害対策委員会（総務部）
- ・ 生涯学習委員会（学術情報部）
- ・ 薬学生実務実習委員会（学術情報部）
- ・ 医薬品情報委員会（学術情報部）
- ・ 医薬品情報管理センター運営委員会（学術情報部）
- ・ 静岡県薬剤師会研修センター構想あり方検討有識者会議（学術情報部）
- ・ 職能対策委員会（職能対策部）
- ・ 基準薬局制度運営協議会（職能対策部）
- ・ 医療連携推進委員会（地域医療部）
- ・ お薬手帳企画・制作協議会（地域医療部）

10 日本薬剤師会等主催の各種関係会議への出席

日本薬剤師会、東海四県薬剤師会（愛知県・岐阜・静岡・三重県薬剤師会）等主催の所要の関係諸会議に出席した。

また、静岡県薬剤師会役員の国、静岡県及び広域連合における公職として、東海北陸地方社会保険医療協議会静岡部会、静岡県医療審議会、静岡県薬事審議会、静岡県社会福祉審議会障害者福祉専門分科会審査部会、静岡県がん対策推進協議会、静岡県救急・災害医療対策協議会、静岡県保健医療計画作業部会、静岡県医療安全相談窓口運営協議会、静岡県献血推進協議会、ふじのくに健康増進計画推進協議会、医薬品類似食品等適正化検討連絡会、薬学講座検討委員会、静岡県後期高齢者医療懇談会等関係諸会議に出席した。

以 上